

―目次―

表紙「花火」

「コラム百折不撓」住職

連載「ハヤブサ物語20」

ハザード会・仏教会報告

野呂ファミリー通信①

愛西市の自治を問う①

みるく世(ゆ)を創る

期待から尊敬へ

SDGsの活動を讃える

連載「私の出会った神様たち③」

さとのりの知恵を読む29 「四つの真理」

掲示板・お知らせなど

泉 いずみ



庭花火 闇にはじける 子らの声 博子

いよいよオリンピックが始まりました。一年延期の中で、選手の方々は調整など大変だったであろうと思います。個人的な感想は置いておいて、まずは、選手やスタッフのご苦労が少しでも報われるような大会であればと思います。

もともと私個人は、今回のオリンピック開催は反対でした。コロナ禍の中、医療体制も圧迫し、適切な治療を迅速に受けられない人を何人も目の当たりにしてきました。オリンピック期間中に、医療関係者が派遣され、地域の医療体制はさらに厳しくなるでしょうし、オリンピックは否が応でも人が集まります。そんな中で、またコロナ感染が爆発したら、それこそ社会的なダメージは大きく、助からない命がより増えるのではないかと、ということが危惧されると思われま

す。しかし、関係者の尽力もあり、最低限のコロナ対策を施しながら、オリンピックは開幕しました。前例のない形でのオリンピックは、多くの方々の見えない尽力、努力の結晶でもあります。今でも、オリンピック開催に賛否はあるかと思いますが、開催された以上、この大会が良い大会であったと感じることができるところを微力ながら応援しようと思えます。

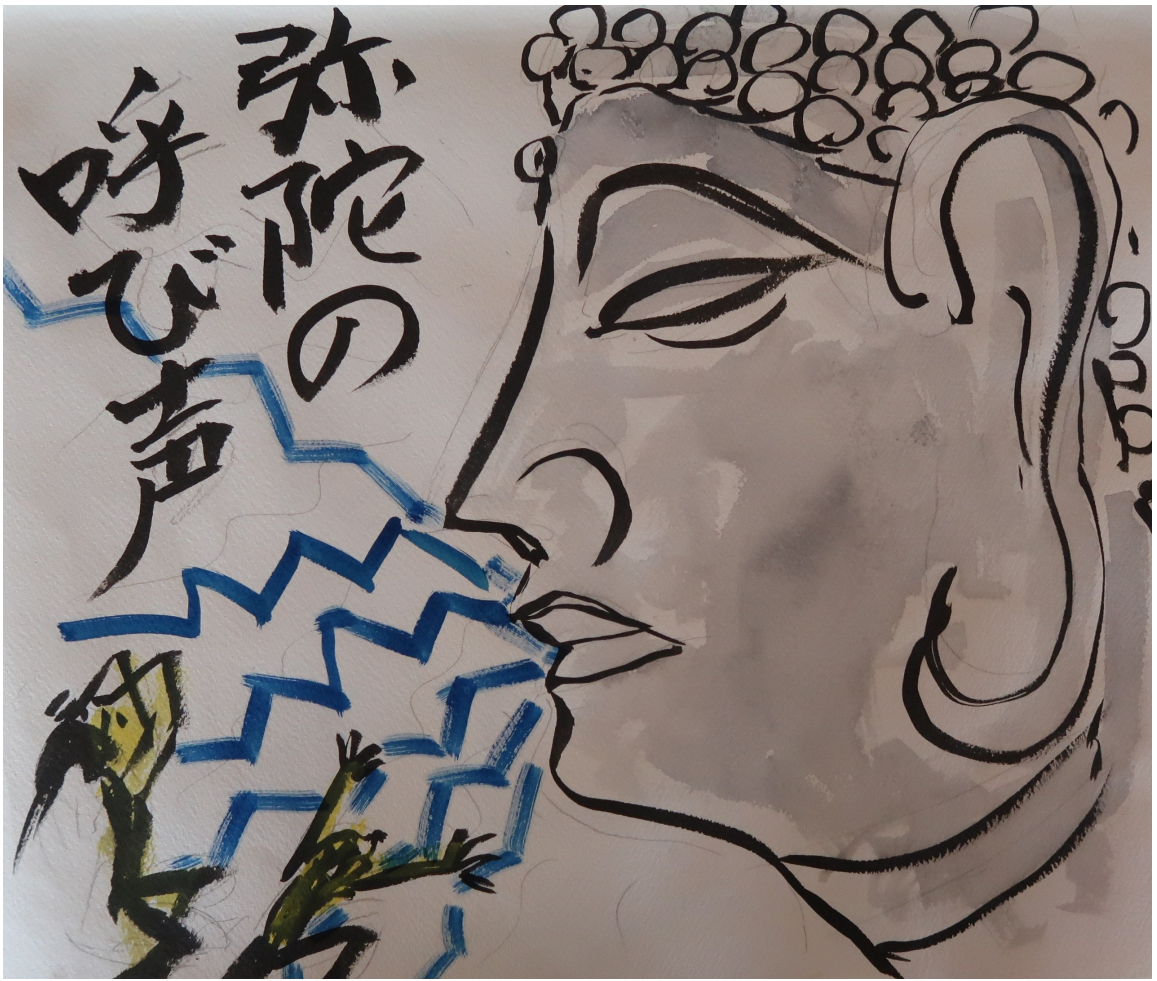
暑い中、コロナには誰よりも気を使い、最高のパフォーマンスを発揮できるよう努められた選手の方々にとって最高の大会であって欲しいと心から思います。先日、ソフトボールの上野選手が、福島を訪れた時のエピソードが報道されていました。復興五輪と位置付けられ、ソフトボールは東北での開催になります。まだまだ、震災の傷跡が残る福島を訪問し、慰霊碑の前で、ふと上野選手が慰霊碑の脇に咲く野花を指差し、「凄いですよね。」とつぶやいていました。

「どんな時でも、どんな場所でも、与えられた環境で精一杯生き、花を咲かせるあの力ってすごくないですか。」この言葉を聞き、「与えられた命。しなやかに生きよう。」とある人の言葉を思い出しました。

竹林の竹のように、南から風が吹けば北へ傾き、北から風が吹けば南へ傾く。雨が降れば、その雨を避けることなく、強烈に照らす太陽の光もそのまま受け止める。しかし、決して折れることのない竹。それは、与えられた場所で大地に根を下ろし、あとは自然に身を委ねあるがままを生きていく、その命が尽きるまでしなやかに。

私が、仕事をする中で、経験が増えれば増えるほど、「仕事とはこうあるべきだ。」「プロとは、こうじゃなければお金をもらう資格はない。」「という「べき論」で仕事をしていた時期もありました（今でもそうかもしれない汗）。その考えを相手に押し付けたり、違う考え方については、到底受け入れることはできない事もありました。自分なりに一生懸命でありましたが、が故に陥りがちな他罰（思うようにいかないのは、自分が悪いのではなく、他者に原因があるのだ）という事でしよう。そんな時に、ある人から「竹林の竹のようなしなやかさがあると良いよ。」とアドバイスを受けたことを思い出しました。

多種多様な価値観、考え方、生き方がある中で、揺るがない「べき論」は、ある程度の強度はあるものの、自然に身を委ねるしなやかさというよりも、風が吹いても動かないという鎧を身に付けているイメージでしょうか。しかし、それはいつかポキリと折れてしまうような。そんな強さよりも、自然に身を委ね、右に左に大きく揺れようとも、大地に根を築き、その与えられた場所で与えられた命をあるがままを生きる生き方。成長すればするほど、大きくしなやかに揺れながら。そんな人生でありたいと思う今日この頃です。



◆今月号の絵は、前号の言葉を図解したものだ。阿弥陀さんの口から左下の昆虫のようなものに向かかって、ぎざぎざの線が出ている。◆これは声だ。阿弥陀さんが我々凡夫に向かって、お前はどこにいるのだと必死に探している状況を表したものだ。◆でも、僕は思う。僕も最初から助けを求めたわけではない。仕事にはかなりの自信があった。きっとこのミッションをやり遂げると考えていた。しかし、現実には甘くない。◆僕は絶望して思いつきり泣き叫んだ。「僕はどこにいます。助けてくれー！」その声を察知したかのように、すでに阿弥陀さんの電波は僕の周りに届いていたんだ。全く信じられないよ！（続く）



◆七月四日(日)久しぶりにハザード会を開きました。部活や塾の合間をぬって集まったのは高校生一名と中学生五名。緊急事態宣言中に「これからやってみたい防災」を各々が考えていたので、市が配布したハザードマップを見ながら話し合いました。◆伊勢湾台風以来特に大災害もなく今に至る愛西市ですが、海拔0メートルの軟弱地盤で最も水害の危険性が高く、特に旧立田地区は木曾川に沿って暮らしがあるにもかかわらず高台や垂直避難できる建物が非常に少ない、どうしたら良いか・・・ということ、堤防より高い「避難タワー」や「高台」が欲しい!と意見がでました。◆もちろん中学生、高校生が作ることは出来ません。しかし一市民として、市政に要望はできるはず。これからを担う若者が真剣に考える声を、大人にきちんと伝え、実現に向けて方法を次回のハザード会で知恵をお願います。◆読者の皆さんも若者たちに知恵、知識をお願いします。(博子)

◆先日立田地区の仏教会が開かれ、何人かの僧侶が集まった。その中で、先日の県や市の要請にどのように答えたら良いかが話し合われた。要請は、コロナ禍の中で、災害が起こり、避難所が不足する事態が生じた時に、宗教施設にも臨時の避難所として協力していただけないかという趣旨の文書だった。◆各寺院は、もし、災害にあった時、寺院が無事であれば、臨時の避難所として利用してもらおう事に異存はないという統一見解を出した。◆しかし、これには条件がある。遺体安置所にも使う可能性があるから、棺やドライアイスなどの用意を市が整えてもらう必要があること、避難者に対して物資を渡す必要性もあることから、それに対する備蓄を用意する必要があるが、その対策など。◆課題は多いが、仏教会が県や市の要請に対して、きちんと受諾した事の意義は大きい。◆「個人的な一寺院が要望してもだめだ。大きな組織で要望を持ってこない」と、行政は動かない。」という一議員のアドバイスを受けて、近々仏教会長と共に、市へ要望をすることになった。◆市が我々仏教会と協力関係をちゃんと結んでくれれば、近隣の市町の中では画期的な出来事になるだろう。防災のイニシアチブを取ることもなるだろう。乞うご期待!(美道)

◎住職としても、避難所として寺院の開放は必要だと思いますが、公的となると、なかなか自由に動けない事もあると思います。当然、避難指示が出た場合は寺院で生活する家族も避難対象者であります。その上で、どの基準で誰が判断して、どのように寺院を避難所として開設するのかはなどの、細かな手順が公的となると必要になるでしょう。

コロナ感染においても行政の判断では助かる命も助からないと、独自の基準で先手先手で動いている団体もあります。このような要請はとても素晴らしい大きな一歩であると同時に、行政機関の指示のもと動くことで、俊敏性や適切な判断力が失われないような事前の共通認識が必要になると思います。(大悟)

北海道中川町の信正寺を原点とする、野呂ファミリーのまとめ役、野呂敏彦氏が魅力的な通信の第2号を発信した。連載で紹介する。



1. 「コロナ感染に負けない身体づくりへ挑戦」

歩いて幸せになる人、歩かないで病気になる人、病気の9割は歩くだけで治る。病の多くは習慣病です。健康な運動をして習慣化するのはです。

医師 長尾 和宏

自然免疫こそが免疫力の基本

新型コロナのような感染症は、今後も確実に出てきます。そのときに頼りになるのは自分自身の免疫力「自然免疫の力」です。歩くことは自然免疫力を鍛える一番の方法です。歩くことは体の健康だけでなく、心を豊かにしてくれます。歩くのにお金はかかりません。一切お金のかからない確実な健康法です。

ウイルスはどうやって体の中に入り込み、増えていくのか。

ウイルスは、生命の最小単位である細胞をもちません。DNAまたはRNAという遺伝子がタンパク質でくまられた形をしています。そのため、自分だけで増殖することはできません。ウイルスはどうやって私たち人間の細胞に入り込むのかというと、主に粘膜が入口になります。新型コロナウイルスの場合は、目、鼻、口の粘膜から体内に入ってきて、細胞の表面にある「ACE2受容体」というタンパク質にくっつくことで細胞の中に入っていきます。

粘膜から体内に入り込んでも、ACE2受容体にくっつく前に撤退されれば感染は成立しません。そこで、まず働くのは自然免疫です。自然免疫力が強ければ感染しても体の内部には入れません。

新型コロナの98%は自然免疫で処理される。

新型コロナは毒性が弱いから、大半は自然免疫で処理される。

高齢だと重症化しやすいのかといえば、肝心の自然免疫が高齢になればなるほど弱くなるからです。

2. 信正寺の近況報告

中川町は、人口減少、少子化と超高齢社会への対応は大きな課題です。人口1,451人、世帯数782

人口減少の中で、信正寺が置かれている檀家数の減少、

お寺の維持のための修理費などが増えており、避けられない大きな課題です。

しかし、住職、雅彦君は、母親瑠子さんと共に、寺院を維持することに精励努力をされています。

檀家エリアは、中川のみならず、近隣の地域、旭川などに分散していることから地方へ出張され奮闘しています。

これからの先のことを考えれば、寺の存続をファミリーが支えていかなければならないと考えています。

雅彦君の亡き父親である信城は、厳しい現状の中で我が息子が奮闘している姿にどれほど喜ぶかと思わずにはいられません。

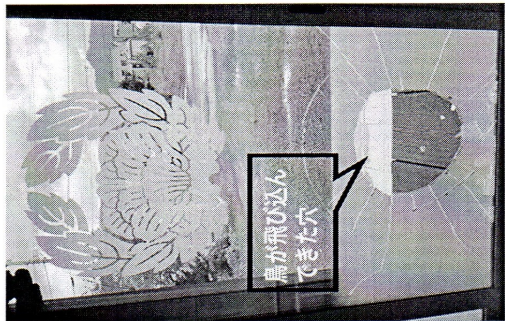


前任職 信城

P1

信正寺トビックス...こんなことが起きました。

本堂の正面ガラスが鳥の被害により割られました。丸く30センチほどの二重ガラスの外ガラスです。鳥の羽が散らかっていたので犯人は鳥だと判りました。ガラスは、大きくて特別注文のガラスですので代償が25万円もかかりました。



2021. 6. 23 毎日 朝刊 尾張版

2021. 6. 23 中日 朝刊 尾張版

議会に請願提出「おかしい」 高松愛西市議、常任委で発言

愛西市の高松幸雄市議（五）二期目、公明が、請願を審議していた常任委員会で「そもそも議会に請願を出すのはおかしい」と発言していたことが、関係者への取材で分かった。野党系の市議は「中身ではなく、権利を否定するような発言はいかがなものか」と反発している。

関係者によると、高松氏の発言があったのは、十五日の六月定例会の総務文教委員会。インターネット上での市議会の動画配信、会議録の公開などを求める市民の請願を審議していた。

高松氏は、請願の紹介議員である吉川三津子市議（無党派）との質疑の中で、請願の解釈として「議会に対してではなく、行政に対して出すということ」と述べた。その後の反対討論でも、同じ趣旨の発言を

したという。

請願は二十二日の定例会最終日の本会議で、賛成少数で不採択となった。

請願権は、憲法で保障された権利。地方自治法によると、自治体に政策上の要望がある場合、住民は議員の紹介によって、議会に請願書を提出できる。

高松氏は取材に「請願権を否定したわけではない。吉川議員が責任を持ち、（請願とは違う形で）行政側に提案すればいいのでは、という意味だった」と説明し、発言の撤回や訂正をするつもりはないとした。（深世古峻一）

情報公開請願を不採択

愛西市議会 市民の願い届かず

愛西市議会は22日の本会議で、全会議のインターネット同時配信など議会の情報公開拡大を求めた請願を反対多数で不採択とした。

請願は、市民グループによる県内全54市町村議会を対象にした「情報公開度ランキング」で同市が全市中最低位とされたことをきっかけに、この委員会で高松幸雄議員が「憲法から、議会に関する請願を出すことはおかしい」とする誤った認識に基づく反対討論を行った。この問題が本会議でも取り上げられたが、大宮吉満委員長は「勉強不足の意見があったが意見として受け止めた」と答弁。憲法で議会に関する請願権は認められており、議会事務局は委員会後、高松議員に説明したという。

請願の紹介議員となつた吉川三津子議員は取材に「議員からこうした発言が出ることに驚いた。誤った情報で委員会の議論が進んだ事は残念」と話した。

請願では、議会の全会議の録画配信や、配布資料を含む会議録をインターネット公開することなどを求めている。【川瀬慎一朗】

◆新聞記事を見てほしい。愛西市議会の一議員が「請願権は憲法違反」という考えられない発言をしたことで波紋を呼び、間違つたこととして記事になった。一市民として恥しいとともに、以前大変苦勞して「自治基本条例」を制定にまで持ち込んだ市民委員として、一言申しあげたい。◆愛西市自治基本条例の条文から引用する。

◆（第八条第二項）市議会は、次に掲げることを基本として運営されなければなりません。（1）市議会の審議その他の活動について、常に市民との情報の共有を図り、開かれた議会運営に努めます。（2）市民への説明責任を果たし、市民との信頼関係を高めることに努めます。（3）広く市民の意見を聴き、その意見を市議会の運営及び前項の機能を発揮していくことに努めます。

◆また、これをもとに議会も「議会基本条例」をみずから作成し、同様の項目を設けている。しかし、せっかくの法整備が整えられているにも関わらず、これを無視するような議会運営が行われていることに私は愕然とした。◆そこで、私は次号よりシリーズで、自治基本条例成立から今日までの私たちの足取りを紹介しようと思う。

いま摩文仁の丘に立ち・あの真太陽(マティダ)まで届けと祈る・みるく世ぬなうらば世や直(なう)れ・平和な世界がやってくる・この世はきつと良くなつていくと・繋がれ続けてきたバトン・素晴らしい未来へと・信じ手渡されたバトン・生きとし生けるすべての尊い命のバトン・今、私たちの中にある・暗黒の過去を溶かすことなく・あの過ちに再び身を投じることなく・繋ぎ続けたい・みるく世を創るのはここにいますわたし達だ◆この文は六月二十三日、沖縄全戦没者追悼式で朗読された、沖縄県宮古島市立西辺中二年生の上原美春さんの詩から最後の部分を掲載したものである。◆純朴なあどけなさが残る少女が、わたし達大人に過去の問題を突きつけ、未来は必ず平和な時代にして見せるという固い決意を述べたメッセージだ。◆私は二度見たが、二度とも洗面所に走ってくしゃくしゃになった顔を洗った。彼女は一度も原稿を見ず、一字一句間違えず、心を込めて堂々と朗読した。アメリカの大統領の就任演説の時に記念講演をした、アマンダ・ゴーマンを彷彿とさせる名演説だった。◆「みるく」という言葉は沖縄語で「未来」という意味だ。私は「未来」は「みるく」から来たと確信している。◆「みるく」は「弥勒」(みろく)が語源だといわれている。弥勒とは何か?親鸞聖人の御和讃に「五十億七千万・弥勒菩薩は年をへん・まことの信心うるひとは・このたびさとりをひらくべし」(正像末和讃二十五)とある。報恩講の時に、皆さんと一緒に

に称えるおなじみの和讃だ。◆阿弥陀如来の世が終わって、次の世界に登場するのが、弥勒如来と言われている。実に五十億七千万年後と言われる。そんな時まで人類が続くとも思えない。弥勒菩薩は菩薩であるから、仏になる修行中の身である。まだ登場していない。◆沖縄で「未来」のことを「みるく」という表現をとっているのは私にとっても素晴らしいことのように思える。◆未来をどのように変えていくのか、素晴らしい未来にしていくのか、戦争が繰り返される苦しみの未来にしてしまうのか、わたし達一人ひとりに問われている。◆歴史は誰によって作られるのか。政治家?実業家?王族?…私は違うと思う。歴史は私たち庶民が作っていくものだ。それらが合わさって大きなうねりとなり、歴史に刻まれるのだ。沖縄を忘れるな!

上原美春さん



◆先月号で住職が述べた「期待は絶望の母」という考えに読者より疑問の声があった。そこで、私なりの考えを述べたい。◆英単語で考える。期待とは expect と綴る。ex は「外から」という意味。pect は spect のことで「見る」という意味。つまり expect は「外側から見る」が語源だ。「外見的に物を見て判断すること」。◆次に spect に付く接頭語を辞書でいろいろ調べてみた。suspect は「下から見る」つまり「疑ってかかる」ということ。◆inspect は「内部を見る」という語源で、「じっくり研究する」という意味になる。◆respect は「もっ一度見直す」という語源、つまり「尊敬する」という意味に繋がっていく。何故なら「あいつはいい加減な奴だと思っていたが、なかなか良いところもあるじゃん。おいらは見直したぜ!」などと言う時、明らかに「見直す」は「尊敬する」につながるからお分りだろう。◆このことを更にわかりやすい譬えによって説明しよう。◆檀家さんの家に毎年美味しそうな柿がなる。下から見上げると良い形をしていて、色も抜群。檀家さんはいつでも取っていいよと言って下さるのだが、実はこの柿は一口かじると、口が曲がるほど強烈な渋柿だ。しかし、ここからが大切な事。この渋柿を一週間、焼酎の入った樽に付け込んでおくと、渋みが綺麗に抜けて、爽やかな甘みが口中に広がる。その柿を後でみんなが見直して言う。「こりゃ旨い!」とね。◆単に柿を見るだけでは (expect) で終わってしまう。ああ、おいしいそうな柿があるね、

とね。下から見上げても同じ。(suspect) でも、中を調べてみたら、(inspect) あっと驚くこの渋さ!しかし、しかし、ここで諦めちゃいけない。何とか渋さを抜けないものか。昔、養老の滝の麓で、くだものが発酵して、アルコールになったという。逆にアルコールで渋みを中和できないものか?大成功!柿は見事に甘柿になった!外見だけの見方 (expect) が見直されて (respect) 尊敬の評価を受けることになった!◆私が言いたいことはこの例えのとおり。どんな人間も、どんな物も、表面的なもの見方では分からない素晴らしい中身を持っているとされた存在であること。だから、簡単に期待しないで、そのものをもっとしっかり見直せ、と天から声が聞こえてきそうである。



(第3種郵便物認可)

中



古新聞で作ったごみ袋と、ポスターを手にプラごみの削減を呼び掛ける生徒たち＝稲沢市西町1の愛知啓成高で

愛知啓成高3年生

家庭から出るプラスチックごみを減らすため、愛知啓成高校（稲沢市西町一）の三年生二十八人が、古新聞を活用し、生ごみを廃棄するためのごみ袋を作った。市内二カ所に置き、市民に環境問題を考えってもらうきっかけにする。

生徒たちは授業の一環で、国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）を学習。プラごみが海洋生物や環境に与

ポリ袋減へ古新聞で生ごみ袋

400枚作製、市内2カ所に配置

える影響に衝撃を受け、「高校生でもできる」とを「クラスで意見を出し合っただごみ袋作りを決めた。

生徒たちは、休み時間などに、サイズの異なる二種類のごみ袋計四百枚のほか取り組みを呼び掛けるポスターを作った。活動の経緯や効果などを説明し、賛同してもらった市環境センターと生鮮館やまひこ南大通店（同市稲沢町前田）に置く。

市によると、廃棄される可燃ごみのうち、約四割が生ごみ。ポリ袋の代わりに使うことで、プラごみを削減できるほか、焼却温度の低下や悪臭の発生を防ぐ効果も期待できるといふ。

需要があれば、今後も活動を続ける。小関葵さん（こもは）「自分たちでもできることがあると分かった」と振り返り、新宅果歩さん（しんたく）「SDGsに興味を持ってもらいたい、みんなで環境問題を考えたいければ」と期待した。

（牧野良実）

上の新聞記事を見てほしい。愛知啓成高校の生徒たちが素晴らしい取り組みをしている。もちろん、仕掛け人は教師だ。授業でSDGsを学び、それに向けての实践活动を生徒自身が考えて企画情宣し、実際に市やスーパーマーケットにおいて、成果を上げた取り組みをしている。私は自分たちが実施している「ハザードマップ作成委員会」とも通じるところがあると思い、私たちの活動を掲載した新聞記事などを高校に送った。ついでに妻が作った新聞紙の袋も添えた。◆数日して、担当の教師からお礼と、手作りのポスターや、袋が送られてきた。◆この記事以外にも、扶桑中学の生徒の「防災についての意見を載せた記事」に着目し交流しようと思っっている。◆しかし、我がハザード会も今は一つの壁にぶち当たっている。コロナで集まりにくいことや、会員たちの目指す方向が今一つ定まらない事、次回は何をしたら良いかなどの案が、会員たちから力強く出されない事などがあ

◆とりあえず、愛西市に防災タワーを作る運動を進めようかという事になった。八月にも具体的な行動を起こすことを、子供達には期待しよう。（絶望しないように）

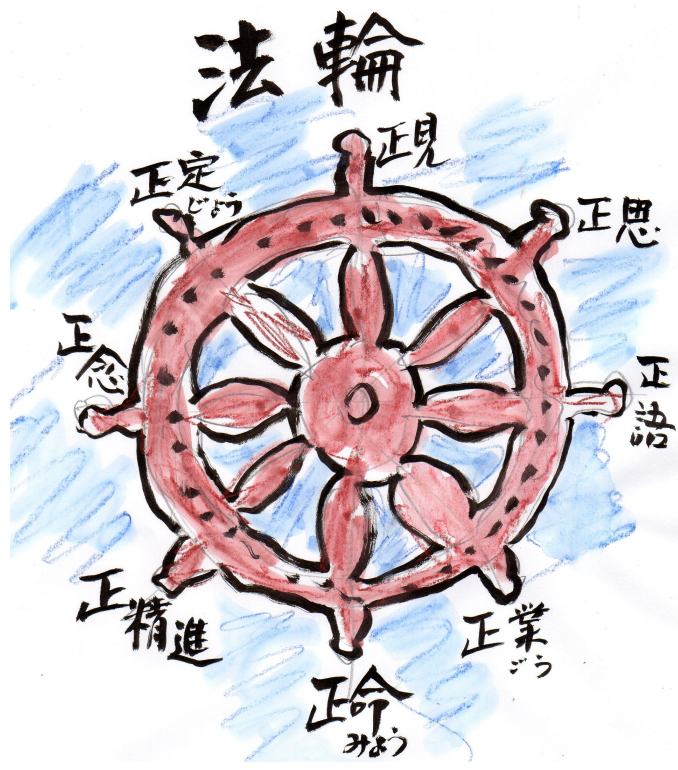
◆今日の講演があるものですから、帰って出直すのも何ですから、そのまま駅前のレストランホテルに泊まっておりまして、今日はそのままここに来ているようなわけです。昨日は一日身体が空いたものですが、まだ残っているはずの自分の生まれた家に行ってきた。◆大空襲がありましたのに、あの一角は残っています。御存じの東海高校の通りに僕の家がございましてね、徳源寺という大きなお寺がございまして、その近所だったので。◆名古屋も大空襲で全滅と聞いておりましたから、戦後間もない頃、どうせ僕の生まれた家もないだろうと思って来て見ましたら、あったので驚いたのです。もちろん代は変わっております。これは売られてしまいました。今ではもちろん僕のものではございません。しかし、そこで生まれて、九つまで育った家です。非常に懐かしい気がしました。でも生家があるということは困るもので、なければ気持ちもさっぱりするでしょうけれど、何か複雑な気がいたしました。◆はじめて名古屋に来て、講演をいたしましたのは随分前のことでございますけれど、たしか昭和三十一年だったと思います。どうせないけれどもあのへんをちょっと散歩してこようと思って行きましたら、私の家があったのです。私は大変に驚きました。そして、当時そこに

お住みになっていらっした方をお願いしました。「実はここは僕の家でございます。いえ、僕の家でなくて、僕の生まれた家でございます。懐かしいのでちょっと拝見させていただけないでしょうか。」◆いきなりどこの誰だか知らない者に頼まれても、向こうだって気持ちが悪いですよ。何か変だ。空き巣が下見に来たんじゃないか。「思った人もいたらしくて、おかみさんが「そんな知らない人うちのの中を見せるわけにはいきません。主人に電話でもしましょうか。」と言いました。◆おかみさんはどうも私にかなり悪印象を持ったのではなかったかと思えました。人相も随分悪かったらしい。そのときに、僕の家は焼けてないということを知った新聞社の人も来ていまして、それに講演の主催者もいました。みんなそろって人相が悪かったのです。 (笑い) (続く)



この人間世界は苦しみに満ちている。生も苦しみであり、老いも病も死もみな苦しみである。怨みあるものと会わなければならぬことも、愛するものと別れなければならぬことも、また求めて得られないことも苦しみである。まことに、執着を離れない人生はすべて苦しみである。これを苦しみの真理〔苦諦〕という。◆この人生の苦しみが、どうして起こるかという、それは人間の心につきまとう煩惱から起こることは疑いない。その煩惱をつきつめていけば、生まれつきそなわっている激しい欲望に根ざしていることがわかる。このような欲望は、生に対する激しい執着をもととしていて、見るもの聞くものを欲しがらる欲望となる。また、転じて死をさえ願うようにもなる。これを苦しみの原因〔集諦じつたい〕という。◆この煩惱の根本を残りなく滅ぼし尽くし、すべての執着を離れば人間の苦しみもなくなる。これを苦しみを滅ぼす真理〔滅諦〕という。◆この苦しみを滅ぼし尽くした境地に入るには、八つの正しい道（八正道はっしょうどう）を修めなければならぬ。八つの正しい道というのは、正しい見解、正しい思い、正しいことば、正しい行い、正しい生活、正しい努力、正しい記憶、正しい心の統一である。これら八つは欲望を滅ぼすための正しい道の真理〔道諦〕といわれる。◆これらの真理を人はいっぺん身につけなければならぬ。

パーリ「増支部経典」より



◎ブツダの最初の説法
◆ブツダは、人間の苦しみの原因とそれを解消する方法を求めて、二十九才で出家し、三十五才でさとり、その目的を達成しました。◆その後、四十五年間、教えを人々に説いたのですが、最初の説法で説いたのが、苦諦・集諦・滅諦・道諦という「四つの真理」です。◆これは非常に理論的で科学的な教えです。まずこの点において、仏教は、他の宗教とは大きく異なっていると言えるでしょう。（続く）

八月の行事予定

ハザード会 一日(日)

文芸クラブ例会 十九日(木)

おみがき 二十一日(土)

秋季永代経 二十九日(日)

昼食はお弁当をお持ち帰り
講師 荒山 淳師

今月の掲示板

浮かぶのは
笑顔ばかりの
墓参り

◆ご先祖さまと笑顔で対面しましょう

お知らせ

◆付録 本山冊子「お盆」

編集後記

◆お寺おやつクラブの呼びかけに多くの方々からご協力を頂きました。心より感謝いたします。引き続きよろしくお願ひします。(博子)

◆Kさんからの絵手紙です。

